

ふれあいの発進



施設理事あいさつ



施設理事 濱口 隆司

さくら

暖かい日差しの中、城辺町大森山の坂道を登ると、一面桜色の景色でまさに春爛漫だ。この千本桜は、昭和五十二年に南宇和ライオンズクラブが、創立十周年記念事業として植樹し、その後南レクが追加し現在は三千本くらいに増えたという。青空の下での桜、夕暮れの桜、そして星空の下でライトアップされた桜は格別である。

日本は四季の移り変わりがはっきりしていて、古来多くの先人たちが季節に応じて生活に工夫を凝らし、それが日本民族の知恵に繋がったと言われる。春の桜はこの節目に特に重要な存在である。卒業式、入学式、転勤、入社式など、桜とともに歩んできたように思う。

なんぐん館でもこの春フレッシュな方々が新規採用された。一日も早く施設にとけ込み、それぞれの長所を存分に発揮して、これから活躍されるよう期待する。

ひな祭り会

この南宇和郡のひな祭りは旧暦で行いますが、なんぐん館では、三月に各階でおひな様を作り、ひな祭り会を行いました。

まず一階では、お花紙で花を作り、花を体としてその上に顔をのせておひな様としました。二階では、紙皿に折り紙で作ったおひな様を貼り、壁掛け飾りにしたものと、朝食時に出るアイミの空き容器を利用した卓上のおひな様を作りました。どれを見ても作成者が表すかのようにそれぞれにいろいろな表情があり、館内を明るく飾っていました。そして、三月二日にひな祭りの会が開催されました。



会は、兼吉施設長の挨拶で始まり、長崎保育所の園児さんたちの劇が続きました。劇では、笑いあり、ホロッとさせられる場面ありと、それを見た利用者の表情は終始ニコニコと嬉しそうでした。

後日、保育所の先生から、園児さんたちも喜んでいただとお話があり、会を開いて良かったと感じました。

(記 唐田 美代)

なんぐん館アピール

なんぐん館では、郡内外より、個人や団体での見学や、ボランティア、体験学習なども受け入れています。今回はそのひとつを紹介いたします。

御荘中学校体験学習

二月五日、御荘中学校の生徒さん二十五名が少年式行事の一環として、なんぐん館に体験学習に来館しました。

今年は一階・二階・機能訓練事業の3グループに分かれ、参加してもらいました。一階では、六名の生徒さんが習字クラブとの手伝いと羽子板風船つきを行いました。羽子板風船つきでは、入所者も中学生も一生懸命していました。



二階では、十三名の生徒さんが参加しました。レクリエーションでは、車椅子レースのゲームを入所者対中学生で行いました。中学生には、ハンディとして、ボールをのせたヘルメットをかぶってもらい、そのボールを落とさないようにしてレースを行いました。結果は、三対三で引き分けでしたが、皆さん楽しまれた様子で笑顔が見られました。

(記 編集部)

今でこそ「なんぐん館」は郡内外にて充分知られる存在になった。数年前、まだ深泥の山に何も無い頃、平成八年三月から老健設立準備委員会が定例で開催された。当初は施設理事六人が城辺町商工会館三階にある医師会研修室に隔週集まり協議を重ねた。その頃は「なんぐん館」も名前がなく、単に「老健」であった。県に設立許可を申請するため、委員会でも名称を決め、医師会総会の段階では仮称で申請したと記憶している。平成九年四月からは毎週委員会が開催されるようになり、同年九月入札、起工式。これからは目に見える形で進行していった。平成十年四月職員入社、同五月二十三日待望の落成式、六月なんぐん館オープン。

